

動物病院から



天寿を全うしたシンリンオオカミのシン

獣医師 高橋 拓

2022年6月、シンリンオオカミのシン(オス、17歳)とジュディー(メス、16歳)は、10年間一緒に生活してきた展示場を離れ、2頭で穏やかに過ごすため動物病院へ移動しました。6月4日には2頭の引退イベントを行い、県内外からたくさんの方々に見守られながら、2頭の展示生活は幕を下ろしました。

飼育下でのオオカミの寿命は15年程度と言われており、シンもジュディーも高齢のために足腰が弱くなり、展示場の段差をまたぐことや、階段の登り降りが大変になってきていたところでした。動物病院内には段差も階段も無いため、比較的足腰には負担のない生活が送れます。シン達が快適に過ごせるように、床にゴムマットを敷いて滑って転ばないように対策をし、寝室の外は歩きやすいようにふかふかの砂を敷きました。寝室は冷暖房完備で高齢の2頭には環境が整った場所といえます。

病院に移動してからのシンとジュディーの生活を紹介します。朝は、ジュディーは起きて歩き回っていますが、シンは大抵寝ています。「おはよう」とあいさつをし、



シン(下)とジュディー(2012年11月)



シン(右)とジュディー(2022年1月)



引退イベントの様子



シンの治療の様子

シンを起こします。シンは顔だけこっちに向け、眠そうに起きてきます。その後、隣同士の寝室にいる2頭と一緒にします。展示場でも行っていましたが、ジュディーが「クンクン」と鼻を鳴らしてシンを呼びに行きます。いつもの日課です。シンもうれしそうに寝室を回りながら隣の寝室に移動します。日中は2頭一緒ですが、以前より休んでいる時間が長くなりました。夕方になるとエサの時間です。給餌するとき、シンは一目散にエサに向かって来るので、ジュディーはおいていかれます。そうして夜間は別々に寝ることになります。まるでテレビドラマに登場する長年連れ添った老夫婦のような1日でした。

穏やかに暮らしていた2頭ですが、7月26日からシンは後ろ足に力が入らなくなり、立つことができなくなりました。前足は動くため、体を引きずったところに床ずれができてしまい、獣医師や担当者が毎日患部の洗浄と消毒をして懸命に治療を行いましたが、残念ながら8月7日に死亡しました。

シンは寝ているときと同じ顔で亡くなっていて、安らかに天寿を全うしたと思います。